

(2) 那須地域における交通対策について

想 定 課 題

既存都市を含む各クラスター間の緊密な連携が求められる新都市の交通体系はどうあるべきか。

対応方向

那須新都市は、広大な那須地域の中に既存都市を含む小規模な市街地が分散して配置されるクラスター構造の都市になることから、各クラスターが国政クラスターを中心として相互に緊密な連携が図れる構造とする必要があります。

各クラスターの緊密な連携を確保していくためには、体系的な交通網の整備が必要となりますが、国会等が移転してくることになれば、交通需要も増加することになりますので、現在の自動車交通を中心とした交通体系は見直す必要があると考えます。

また、新都市は環境共生のモデル都市となるわけですから、那須新都市の新たな交通体系の中心となる移動手段は、増加する交通需要に効率良く対応できるものであると同時に、環境負荷低減の観点から、二酸化炭素や窒素酸化物などの排出が少ない低公害型のものとする必要があります。

具体的には、大量輸送が可能で環境負荷の小さい交通施設として、L R Tなどの「新しい交通システム」や低公害型バスなどの導入が考えられます。例えば、L R Tは既に欧米諸国を中心に導入が進んでおり、「環境首都」とも称されているドイツのフライブルグ市やフランスのストラスブール市などが有名です。これらの都市では、L R Tを都市になくしてはならない道路や公園、下水道などの都市施設と同様に捉え、生活者の利便性を高める施設として積極的に導入しています。また、日本でも現在大きな課題となっている中心市街地の活性化を図る手段としても有効に活用されています。

そして、このような環境負荷の小さい交通施設の導入と同時に、それぞれの交通施設が効率的に機能するための公共交通ネットワークを整備していくことが重要であると考えます。

さらに、公共交通を基本としながらも、これを補完するものとして、電気自動車や自転車といった環境負荷の少ない個別の移動手段の利用を組み込んだ、総合的な交通体系を構築していく必要があると考えます。

L R Tの整備事例（フランス・ストラスブール市）



新しい交通システムの例

L R T（Light Rail Transit：軽快電車）

路面電車を新しいシステムとして再生したもの。道路と分離した専用の軌道を走行し、部分的には高架化・地下化を積極的に行う。

モノレール

1本の軌道桁の上をゴムタイヤの車両がまたがって走る跨座型と、軌道桁を走る台車から車体がぶら下がる懸垂型とがある。

A G T（Automated Guideway Transit：案内軌条式鉄道）

高架の専用軌道に小型軽量のゴムタイヤ付きの車両を、コンピュータによって運行管理するシステム。最小の間隔で運転し、無人運転も可能。

リニア地下鉄（小断面地下鉄）

リニアモータの採用で車両を小断面化することで、トンネル断面を小さくし、建設費の低減を図ろうとするもの。

H S S T（High Speed Surface Transport：常電動磁気浮上式鉄道）

磁気の吸引力で車両が浮上し、リニアモータで推進するシステム。

都市交通としては巡航速度 100 km/h タイプを開発中。